

[佳 作]

## 「北方領土についてわかったこと」

江別市立大麻東中学校

1年 金木 まどか

私は北方領土の島の場所や名称、現在の島の様子について色々わかりました。

島の場所や名称については、大きい順に、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島です。歯舞群島の西端の貝殻島が北海道東部の納沙布岬から4キロメートルほどしかはなれていなく、平たんな島々からなっています。

元島民の松本さんの話を聞いて、今現在の北方領土と、昔の北方領土では、ずいぶん変わったんだなと感じました。

戦前までは、学校などを会場とした巡回映画や、学芸会、運動会などが行われ、とても喜ばれました。自然はとても豊かで、食品加工もさかんでした。

ところが、昭和20年9月1日の早朝、斜古丹湾に、真っ黒い軍艦2隻が侵入してきて、日本人よりはるかに大きいソ連兵が、銃剣やライフルを構え、上陸してきました。民家を襲い、金品を奪ったソ連兵も多くいました。追い出された人々は、物置や知人の家に間借りをして生活していました。毎日がソ連軍の監視下にあり、恐ろしくて一步も外に出られない日々が続き、島を脱出する人々が増えました。監視の目を逃れるために、暗闇や海の荒れている日を選び、エンジン音と灯火を消した小さな船に家族や知人を乗せ、死を覚悟した上での脱出でした。

そんな中、島に残っていた人々は、急に告げられたソ連との混住生活。先の見えない不安な生活。すると突然ソ連軍から、日本に帰すとの命令がでました。一週間ほどで船が来て、自分で持てるだけの荷物を持ち、追い出されました。到着すると、真岡の収容所へ入れられました。厳寒の地で体を壊し、死亡する人も多くいました。その後、引き揚げ船で函館にたどり着くことができました。

このようなことから、現在は、ロシア連邦に不法に占拠されていて、返還はまだ実現されていません。

いずれ、元島民の方も、今回語り部として来てくれた松本さんも、自分たちの祖先が眠る場所へ、自分の生まれ故郷へ安心して、気軽に行けるようになってほしいです。

私たちが住んでいる北海道では、自治体が中心となり、北方領土返還運動に力を入れています。署名運動や北方四島交流（ビザなし交流）など、色々な活動を行っているこの世の中。私たちが今協力できる活動は何か。今一度確認し、一刻も早く北方領土が返還され、元島民の方々が安心して、そして気軽に行き来できるようになる日を願っています。